

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)パドール嵯峨新宮町	階数	地上5F
建設地	京都府京都市右京区嵯峨新宮町52	構造	RC造
用途地域	第一種低層・第二種住居・準防火地	平均居住人員	131人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年2月28日
敷地面積	1,375㎡	作成者	松井 ひろみ
建築面積	759㎡	確認日	
延床面積	2,903㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。幹線道路に面した計画地に「変化」と「京都市らしさ」が混在する新たな集合住宅の実現。また低層部には深い庇と勾配屋根で日射に対する消費エネルギーの低減に寄与しています。高層部ではパラペットを勾配にしたり、車路・アプローチ部分に深い庇を設けることで丸太町通りからのファサードに変化を与え「新しい京都」を実現しています。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。積極的に内装仕上げ及び天井裏の仕様材料にF☆☆☆☆を採用し、シックハウス対策にも取り組んでいます。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。劣化対策等級3を取得予定で住宅の品質確保に努めるとともに、勾配屋根部分の天井高に関しては一般層より高いCH=2650を確保することでゆとりある空間</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。太陽光パネルを設置することでノンカーボンの実現に微力ながら貢献しています。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。地域産木材の利用に努めます。</p>
	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。狭小地でありながら緑豊かな外構計画を実現しています。また、小さいながら枯山水を道路面に設けることで「京都市らしさ」の実現に貢献しています。</p>
	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される